

## 重要無形民俗文化財 「京都の六齋念仏」と千本六齋会について

千本六齋会は、京都西陣「千本ゑんま堂」界隈に伝わる「京都の六齋念仏」を伝承する『空也堂系芸能六齋』で、重要無形民俗文化財の指定を受けている保存団体の一つです。

「京都の六齋念仏」の起源は、平安時代に空也上人が始めた『空也踊躍（ゆうやく）念仏』であるとい一般的にいられておりますが、いろいろな説があり、道空上人が広めたといえられる干菜寺（通称・ほしなでら）系六齋念仏を伝承されている保存会もあります。

六齋念仏と称される由来は、月のうち六日ある齋日に、市中各所で念仏を唱えたことからといわれております。その後、六齋日を離れ、今日の「京都の六齋念仏」の多くは八月の行事となつていますが「六齋念仏」の呼称がそのまま残りました。（一部は春、秋、年末にも行われます）千本六齋会も、毎年八月の十一日から十三日の3日間「勧善廻り（精霊迎え棚経）」と十四日の「千本ゑんま堂・盃蘭盆奉納」を公開行事として執り行つております。

一方、「京都の六齋念仏」の形態は、念仏踊を中心にした宗教的演目がほとんどの『念仏六齋』と音曲・演技を取り入れた芸能を主体とする『芸能六齋』の二つに分類されます。（当会は芸能系）「京都の六齋念仏」の継承保存団体は現在、京都市内に十数組あり、昭和五十八年一月に系列形態の枠を超えて全団体が国から『重要無形民俗文化財』の指定を受けております。

芸能六齋の芸は、江戸時代の中頃、京の町で広まっていた長唄・能・狂言・歌舞伎・神楽・祭囃子など各種芸能の特徴を取り入れ、笛・太鼓・の曲や演技が六齋念仏用に創案されました。さらに風流化が進み、原曲と離れた六齋念仏独自の芸能に発展し「祇園囃子の太鼓踊り」や「獅子舞の碁盤乗りと土蜘蛛」などは、六齋念仏の代表的演目になっております。

千本六齋会の演目は、伝統の中に新しいものを取り入れていく西陣という土地柄を反映し、テンポの早い華やかな芸が持ち味で、娯楽色の強いところが特徴です。中でも祇園囃子に取り入れた『すずめ踊り』や、独特の容姿でリズムカルに跳ね躍る獅子舞と、西陣織金襴の衣装が艶やかな『蜘蛛の精』が獅子と大きく立ち回る姿は、千本六齋風といわれております。

千本六齋会では、会員（後継者）を募集中です。先人が伝えて来た西陣風の六齋念仏を伝承するため、是非、ご入会ください。募集要項は、ホームページ：<http://rokusai.jp.n.org>をご覧ください。

### 予定演目

発願念仏、豆太鼓（浪花・道成寺・素賀楽・砧・山姥・法縁祭）、四ツ太鼓、祇園囃子（すずめ踊り）獅子舞、獅子と蜘蛛の精、攻め太鼓、阿弥陀打ち、結願念仏



西陣 千本六齋会



郷土芸能（重要無形文化財）

# 「京都の六斎念仏」奉納

8月14日(火) 千本ゑんま堂 特設舞台

午後 7:00 開演

午後 9 時終演

観覧無料・少雨開催

※観覧席には屋根がありません

※当日、境内は駐車できません

公共交通機関をご利用ください

 西陣 千本六斎会

ホームページ：<http://rokusai.jpn.org/>



本公開行事の開催は公益財団・京都市文化観光資源保護財団の助成を受け実施しております